

“世界をリードする大阪産業”の 現状と今後の取り組み

～ 大阪の経済成長と産業構造 ～

大阪府商工労働部

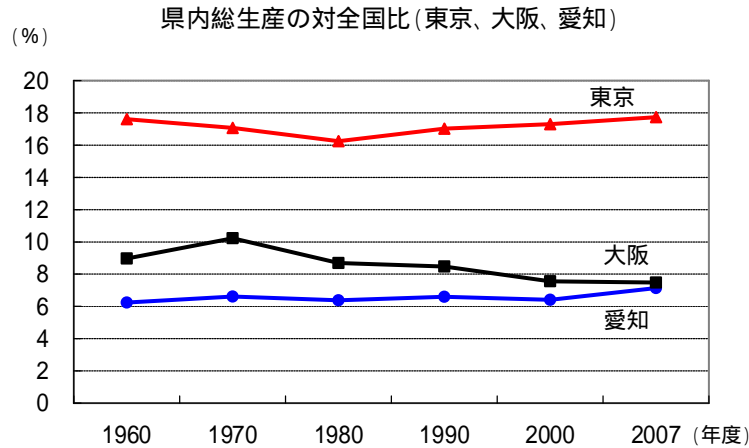
H22.11

もくじ

- 構造転換の遅れる大阪経済(成長の軌道に乗り遅れた大阪産業) …… 1
- 大阪府の産業経済構造(付加価値を生み出している産業) …… 2
- 大阪の輸移外型産業の分析 …… 3
- 大阪のサポート型サービス産業の分類 …… 4
- 大阪の成長戦略 …… 5

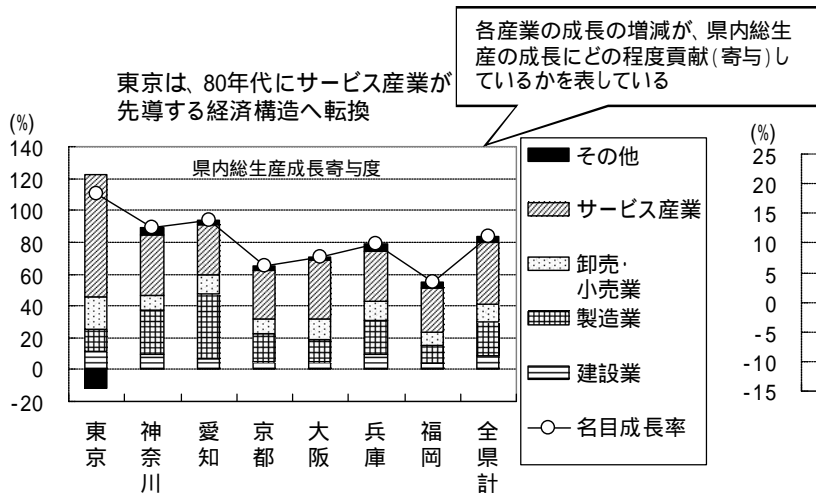
構造転換の遅れる大阪経済(成長の軌道に乗り遅れた大阪産業)

大阪経済の全国シェアは1970年以降低下

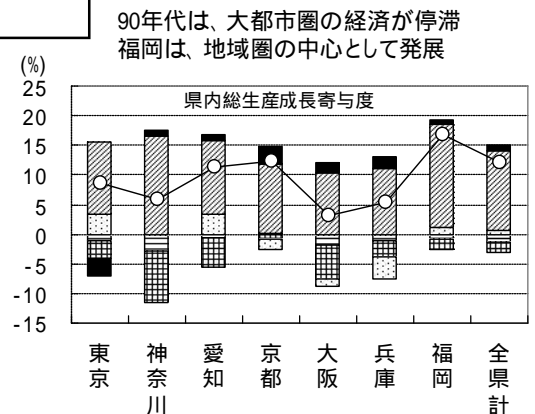


(注)1960年度、1970年度は、68SNA、昭和55年基準。1980年度は、68SNA、平成2年基準。1990年度は、93SNA、平成7年基準。2000年度、2007年度は、93SNA、平成12年基準。
資料:内閣府『県民経済計算』

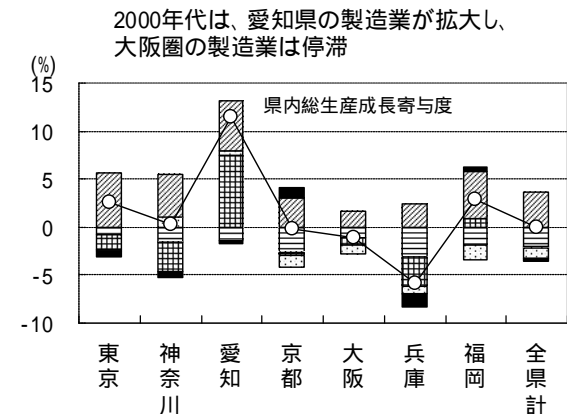
- 大阪はかつて卸売業と製造業を両輪として全国、海外へモノを販売することで成長してきたが、成長産業への産業転換が緩慢に。
- 80年代は、東京は、サービス経済化の中で、サービス産業で稼ぐ経済構造へ転換
- 90年代は、大都市圏の経済が停滞。福岡が地域圏の中心として発展。
- 2000年代は、愛知は、自動車産業の主導で成長を遂げてきた



(注)サービス産業は、金融・保険業、不動産業、運輸・通信業、サービス業の計。
資料:内閣府『県民経済計算』、68SNA、平成2年基準



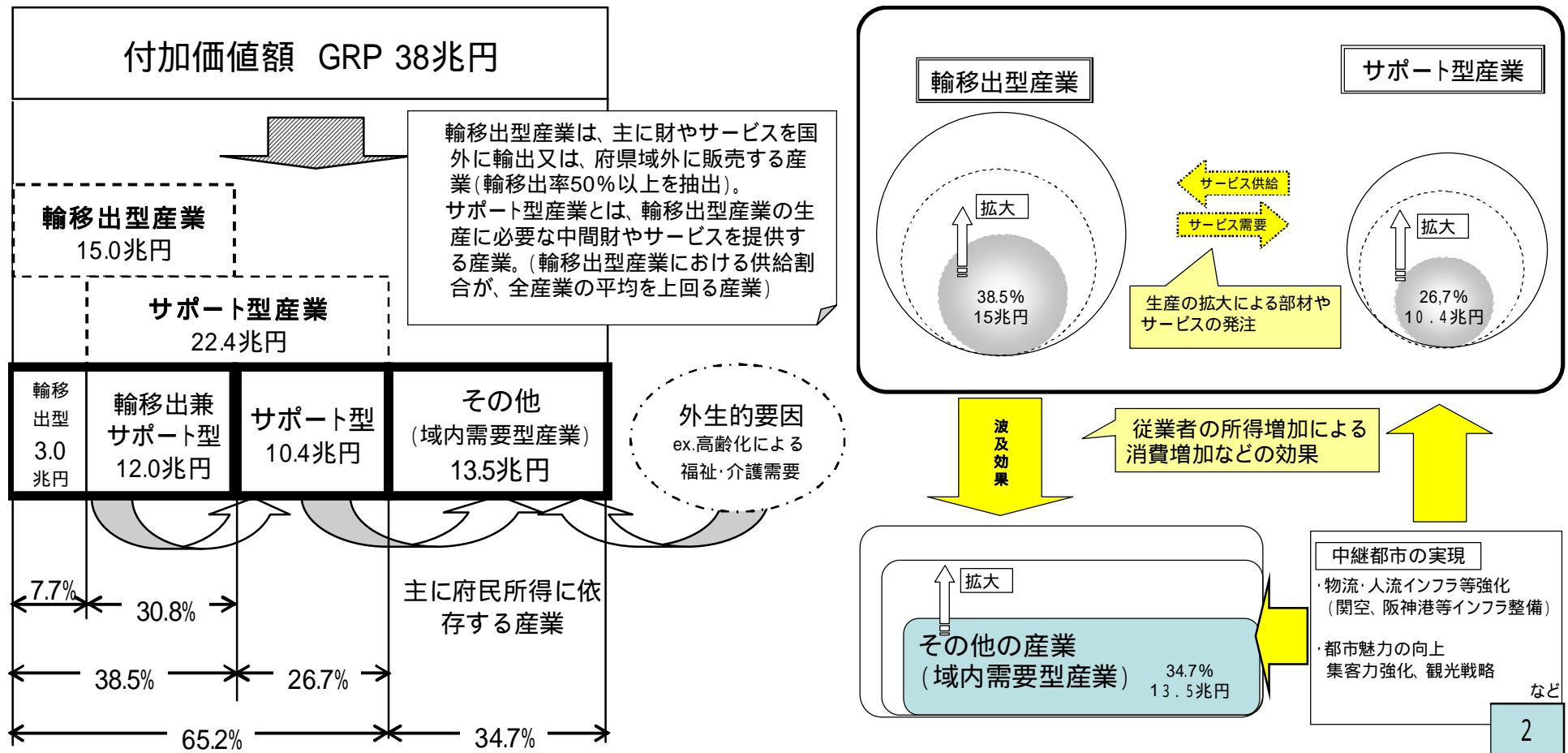
資料:内閣府『県民経済計算』、93SNA、平成7年基準



(注)2000年度～2007年度
資料:内閣府『県民経済計算』、93SNA、平成12年基準

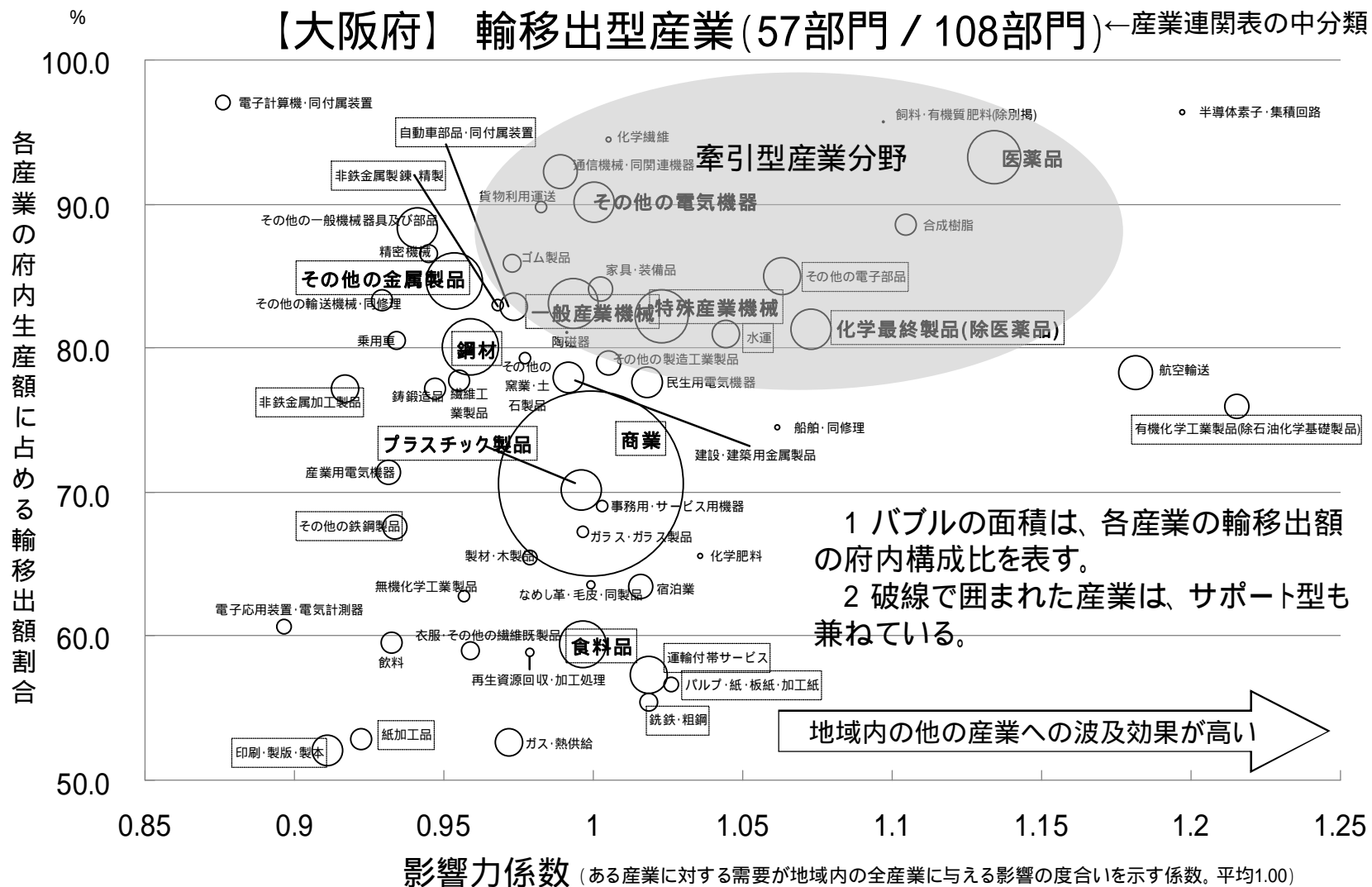
大阪府の産業経済構造 (付加価値を生み出している産業)

- GRPの65%を生み出しているのは、輸移型産業(輸移出向け中心に生産活動をしている産業)と、それを支えるサポート型産業。その他(域内需要型産業)が生み出すGRPは、全体の35%。
- 輸移型産業は、主に府民所得に依存する 域内需要型産業と異なり、域外・海外の潜在的な需要の取り込みによる成長が可能。
- 輸移型産業の拡大は、それをサポートする産業の生産を拡大させ、これら産業の成長がその他の産業の需要増加につながることから大阪の経済成長を牽引。



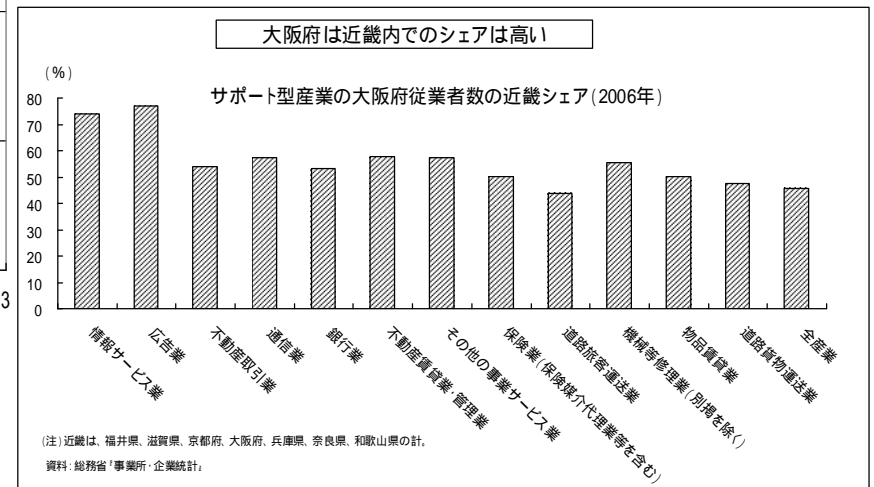
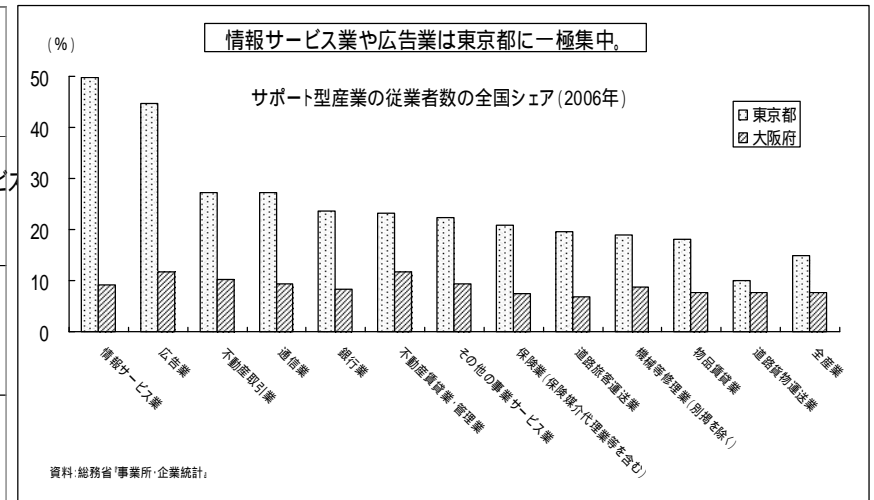
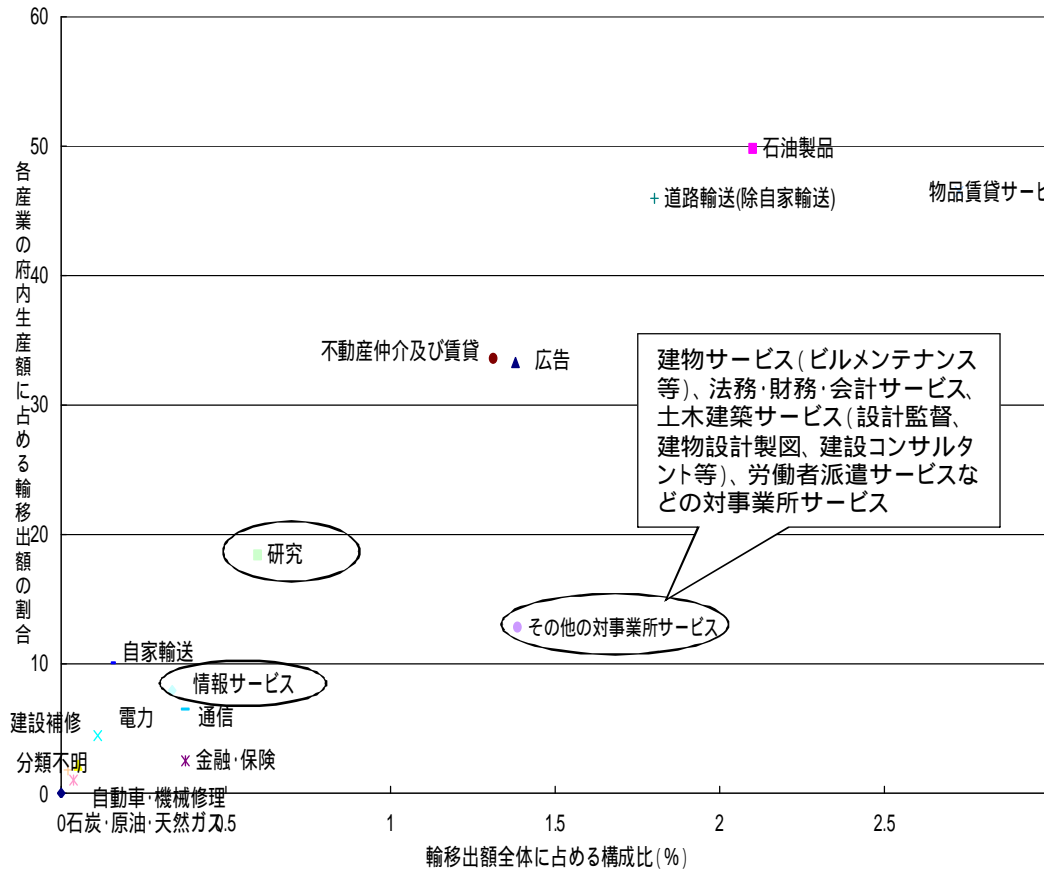
大阪の輸移出型産業の分析

輸移出型産業の中で、大阪をリードしてきたのは、
 ・製造業の中では、医薬品、一般産業機械、特殊産業機械、通信機械・同関連機器、
 化学最終製品 など。



大阪のサポート型サービス産業の分析

- 情報通信業、サービス業(広告代理店、法律・特許事務所等)など対事業所サービスの大半は、東京に集中。
- 大阪は、近畿の需要を取り込んでいるものの、輸移出力の現状は極めて弱い。



「大阪の成長戦略」

目指すべき方向性 「ハイエンド都市」、「中継都市」

ハイエンド産業・ハイエンド人材の集積拠点

- 環境・新エネルギー、バイオなどハイエンド産業の集積が更なる集積をよび、緊密なネットワークを構築。
- 世界に通用するグローバル人材が育ち、集まり、交流することにより、新たなイノベーション(技術革新)を創出し、ハイエンド産業との相乗効果を発揮。

アジアと日本各地との結節点・玄関口

・(略)

大阪の成長を具体化するために

成長を牽引するハイエンド産業の振興に向けて、

- ・これまでの先端分野の製造拠点集積に加え、
- ・新たに、創造型(クリエイティブ)企業の集積を目指す！